SDGs に関する万国津梁会議（第一回）
議事概要

日　時：2020 年 7 月 3 日（金）
場　所：沖縄県庁　ほか（オンライン会議）
出席者：玉城 デニー知事、島袋 純委員長、蟹江 憲史委員、佐喜真 裕委員、佐野 景子委員、玉城 直美委員、平本 督太郎委員

主催者挨拶（知事）

　ハイサイ　グスーヨー　チューガナビラ。皆様こんにちは。沖縄県知事の玉城デニーです。委員の皆様には、昨年度に引き続き、また佐野所長におかれては、本年度から会議へのご参加ありがとうございます。
また、令和元年度の「SDGs に関する万国津梁会議」では、「沖縄らしい SDGs」について、議論をいただき、中間報告を取りまとめていただきました。心から感謝いたします。ありがとうございます。
私は、知事に就任して以来、祖先（ウヤファーフジ）への敬い、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添うチムグクルを大切にするとともに、「自立」、「共生」、「多様性」の理念の下、包摂性と寛容性に基づく政策を推進しております。
今後とも、これらの理念に基づき、全庁的に推進している SDGs を、これからは全県的な展開につなげていき、持続可能な沖縄の発展と誰一人取り残さない地域社会づくりを目指して頑張っていきたいと考えております。
また、沖縄県におきましては、沖縄２１世紀ビジョン基本計画等の総点検や新沖縄発展戦略を踏まえ、今年度は振興計画の骨子案について検討を進めるとともに、残り２年となる沖縄２１世紀ビジョン基本計画の総仕上げに向け、取り組んでいるところです。
今後の沖縄県の施策推進や新たな振興計画の検討においては、with コロナから after コロナを見据えることが必要であり、今後、ますます SDGs の視点が重要になってくると考えております。
　私としましては、新たな振興計画の中核として、次の十年間を見据えた、沖縄らしい SDGs をしっかり組み入れていきたいと考えております。
　委員の皆様におかれましては、今年度も引き続き、その「沖縄らしい SDGs」について、さらに深掘りいただき、御意見をとりまとめていただきますようお願いいたします。もちろん今後の県の各種施策の推進や、振興計画の骨子案への検討等についても、しっかり取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。
　皆様からの御意見については、今後の県の各種施策の推進や新たな振興計画の検討に活かしていきたいと考えております。
今日から、是非また活発な御議論をいただきますよう。御理解と御協力をお願い申し上げま

す。
　ユタサルグトゥ、ウニゲーサビラ。ありがとうございました。ニフェーデービタン。

（途中退席：玉城知事、佐喜真委員）

審議事項（1）今年度のスケジュール

- 沖縄県内の政策は沖縄振興計画の中に位置づけられる必要があり、SDGs の取り組みもこの振興計画の中に組み込まれる必要があると考えている。（島袋）
- 沖縄県の企画調整課が、現在の沖縄振興計画である沖縄 21 世紀ビジョン基本計画の総点検において、同計画と SDGs の関係を整理した。その結果、県の施策は基本的に全て SDGs に関連していることが示された。この会議では、振興計画は別途、総点検や次期計画の議論を行う場があるので振興計画に直接関わる部分を議論するのではなく、沖縄県での SDGs とは何なのかについて議論が求められていると理解している。（佐野）
- 沖縄振興計画に反映されるのは重要なことだと思っている。この会議で出る具体的な方策などを振興計画に反映していくという理解をしている。（蟹江）
- 昨年度の第 1 回開催時の説明から沖縄振興計画に対して SDGs に関する材料をインプットする役割だと考えている。SDGs は範囲が広いため、各地域が地域の特徴を反映したさまざまな持続可能性の在り方を世界に共有していく必要がある。そのため沖縄らしい SDGs に関する議論を通して沖縄の重要な特色を議論し、沖縄振興計画策定時に活用いただく根拠の一部として示していくという流れだと認識している。（平本）
- ステークホルダー会議などにも極力参加したいので、早めにすべての会議スケジュール調整をお願いしたい。（平本）
- 8 月末までに集中的に議論を行う必要があるが、会議のスケジュール調整が難しい場合、県内の委員が事務局と論点整理や県内で得られる情報の収集など粗ごなしをすることも考えるべきでは。（佐野）
- 昨年度も話に上がったが、会議等を開いたとしても女性・子供・障碍者の方から直接意見を聞くのが難しい。そういった方々に対して、委員の専門領域などを活用してこちらから出向き、聞き取りを行ってはどうか。（島袋）
- 県内委員と県外委員の意識のずれを防ぐためにも、県内委員の間であった議論は積極的にオンラインで共有できたらと思う。会議時間については早朝・夕方を含めるなどして時間を細かく区切ってみてはどうか。（平本）

審議事項（2）沖縄らしい SDGs の検討

- 共通理念の策定にあたって、浸透していくフレーズを作るのかが大事である。SDGs に関する取り組みについて多くの人が認知するには、個人の日々の活動と SDGs の結び

つきをわかりやすく示す必要がある。SDGs の取り組みが進んでいる下川町（北海道）や大崎町（鹿児島）などではフレーズも工夫されているのでそれらの表現・しくみを参考にするとよいかと思う。

また、県レベルの取り組みとしては、 広島県では目標 16「平和と公正をすべての人に」を重視している。外部講師（フィリップ・コトラー氏）を招いてマーケティングから平和について考える取り組みを数年前から続けている。コトラー氏からの提言「愛を増やし武器と憎しみの連鎖を減らす」を受け、県は SDGs 未来都市計画において 2045 年に向け「核兵器のない平和な国際社会」が新たな国連の目標に位置づけられていることを目指すと掲げており、このテーマを中心に民間セクターや若者、市内の空き家問題を重点的に取り組む課題として提示している。

また、富山県では SDGs 未来都市の中でコンパクトシティとして「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先端県 とやま』」を掲げている。具体的には、目標 7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を中心に目標 14,15,12 などを重点領域に設定している。

沖縄らしい SDGs の考え方として、①17 の目標から重点化する目標を選抜する方法、②新たに 18 番目の目標を制定する方法の２通りが考えられる。①の方法はすでに他県でも取り入れられている。②については昨年度も話にあがっており、ラオスなどで行われている。沖縄の文化・言語などの特色を前面に出すのであれば、18 番目に沖縄県として特に強調したいものを設定しそこに紐づくフレーズを考えたりすると、他県の取り組みとは一線を画す上、話題性や意見などが呼び込みやすくなると思われる。（平本）

- 現在の SDGs の目標で歴史/文化/言語の継承・発展に関する分野は少ない。首里城の火災を受けて県内の歴史・文化・言語などへの関心は非常に高まっているので、これらの分野を核として 18 番目の目標を設定するのはどうか。（島袋）
- 文化や琉球語は SDGs を自分ごとにする一つのツールとなりうるので 18 番目の目標をぜひ作ってほしいと思う。沖縄県が作成している冊子中で SDGs の中でも優先順位があることを示しているので、沖縄振興計画に沿いながら改善していくべき分野を県民に周知していくことは大切だと思う。（玉城）
- 当事者意識をもたせるためには、共通理念の作成は委員の中だけでなくステークホルダーの意見も踏まえる必要がある。（島袋）
- 18 番目の目標だけでは集約しきれないかもしれないので、沖縄版の SDGs を作るのがいいと思う。グローバルな SDGs を沖縄の文脈に翻訳した方が、県民の生活にもなじみ、ステークホルダーの会議などでも盛り上がると思う。2030 アジェンダにて国ごとでターゲットを考える必要があると述べられているが、日本ではまだそこまでできずにいるので、国を超えて沖縄から独自のターゲットを考えたり沖縄版 SDGs を設定したりするのがいいと思う。ステークホルダー会議や沖縄振興計画への反映などが予定されているので、事務局から出てきた案や沖縄県民意識調査などを基に内容を再構成

してみてもいいと思う。作業が大変であればお手伝いしたい。（蟹江）

- 沖縄版 SDGs の作成という提案は良いと思う先進事例としては富山県の黒部市が「5GOALS for 黒部」として、5 つの目標を掲げ 17 の目標に紐づくよう設定しているのでこれが参考になると思う。今後 10 年の間に、2045 年に向けたポスト SDGs としての新たなゴールを作っていくことになる。それまでに沖縄県としての目標を改めて明確に示すことが重要になる。そういった観点からも、オリジナルで目標をつくるのはとても良い案だと思う。（平本）
- 沖縄は離島も含め、全体ではかなり広い。沖縄版 SDGs は県を対象に考えられていると思うが、他の自治体の例はもう少し小さい、市町村単位の話だとすると、参考にする際に留意が必要。知事が言及した「全県的な沖縄らしい SDGs」を目指す上で、県の中も多様性に富み、統一感を醸成するのは実は難しいように思う。キャッチフレーズの作成にしても、沖縄島のうちなーぐちを取り入れた場合、離島の方たちにとってはどうかとか。沖縄らしいと思っていることが県民からみて沖縄らしくない可能性もあり、丁寧に議論を重ねる必要があると思う。沖縄版 SDGs というものを一から作成できれば理想的だと思うが、SDGs が沖縄県内でまだ十分に浸透していない今の段階では、まず 17 の目標を活用して、収まりきらない沖縄らしさがあれば 18 番目の目標に込め、それをフレーズ化した方がいいのかもしれず、引続き議論していきたい。（佐野）
- SDGs を通して、グローバルな課題と沖縄の課題に共通点があることに希望を見出している。沖縄で取り組むことには限界があり、あくまで国際的な基準に沿うことが重要ではあるが、それでも 18 番目の目標を自分たちで作るということが大切だと思う。沖縄版 SDGs はその次のステップだと考える。現時点で沖縄とは無関係そうな目標であっても、それは沖縄がかつて抱えていた課題で、現在は途上国が抱えている問題であったりもするので、17 個の目標を通して海外にも目をはせることができると思う。（玉城）
- 沖縄県民意識調査にもとづいて目標にすると、解決すべき課題であるにも関わらず県民に問題意識がないものが抜け落ちていく可能性がある。例えば沖縄内では 5 年ほど前まで、子供の貧困などの重要課題について問題意識があまりなかった。17 の目標を読み込むことで国際的な水準を理解できるので、この基本目標を見据えながら優先課題として沖縄らしさを出していく方がいいのではないか。（島袋）
- SDGs 自体が広い範囲の話なので、さまざまなレベルで考えることができる。18 番目の目標について、17 つの目標にはない新たな目標を考えようとするのはもったいないと思う。17 の目標それぞれに、土地の広さや気候など、他県とは違なる沖縄の特徴を見出すことができるので、新たに再構成した沖縄版 SDGs の方がいいのではないか。（蟹江）
- 17 の目標から問題を認識していくプロセスや 17 つでは表現しきれない沖縄らしさを 18 番目として構成するプロセスなど、これまで出てきた方法はどれも重要な方法だと考えているが、このあたりはステップ論になると思う。今後は教育現場で誰もが SDGs

を学んでいくことになる。そのため、まずは教育機関と連携し、一般的な SDGs の理解促進と 17 個の目標における沖縄らしい重点目標の抽出を行い、次に若者から沖縄の 18 番目の目標について、デザイン等も含めてどうあるべきか提案を募り、県民の投票などを通して決定し、その後、新たに再構成した沖縄版 SDGs の作成に取り組むのが良いのではないだろうか。2025 年の万博あたりからポスト SDGs の議論が始まると認識している。そのため、その時までに再構成した沖縄の SDGs が提示できるようにしたい。学校の課題などで考える機会があれば SDGs に対する理解が子供たちから広がり、子どもを通じて大人にも広がっていき、懸念のあった離島も含めた沖縄県全体の意見の拾い上げも比較的円滑にできると思う。こうした流れで、３つぐらいのステップで沖縄版 SDGs を作成していく進め方を沖縄振興計画に位置付けるといいのではと思う。（平本）

審議事項（4）コロナ後の視点

- 玉城知事が慰霊の日のスピーチにてコロナの問題に触れ、コロナによる差別・社会的弱者に対するさらなる差別、困窮の問題などと関連し、人間の安全保障としての SDGs のさらなる推進について言及している。（島袋）
- 格差や差別が一番の問題になってくると思うと同時に、コロナで社会が思った以上にサスティナブルではなかったことが明らかになり、ますます SDGs の視点が重要になってくると思われる。コロナ前とコロナ後では SDGs の文脈がかなり変わってくる。また働き方が大きく変わり出し、働き方が変わることで街の在り方も変わってくると思われる。リモートが進みオフィスの必要性が薄れ、新たな用途でスペースが利用されるなどして、これまでと違った人たちが都市に入ってきたり、地方からのリモートを活用したりする人が格段に増え始めている。沖縄にとってどんなアフターコロナ対策が必要なのか特に留意して考える必要がある。SDGs 自体は変わらないが、SDGs に向かう勢いが増すことになると思うし、コロナと SDGs を引き付けて考えることは必須だと思う。（蟹江）
- 県内のマスコミが示したように、観光産業に頼っている沖縄の社会構造を見直す必要がある。また、オンライン授業に移行できた大学を除き、多くの小中高校では様々な事情で沖縄の教育が完全に停止し、取り残される児童生徒が大勢いた。加えて医療機関の脆弱性も浮き彫りになり、感染症に対して今後の沖縄独自の視点が問われると思う。企業についても、休業補償等の基本的な対応ができていないところも多く、女性・シングルの方・外国人留学生などが影響を受けた。次回以降は県内のコロナに関する報道を県外の委員の方々と共有して検証し、抽出できた県内の課題を 17 個の目標に照らし合わせていきたい。また、コロナ禍で助け合った事例も多くあるため、社会的に弱い人たちを助ける仕組みにも目を向けてほしい。（玉城）

- コロナによって、昔からあったけれど沖縄の社会の脆弱性として今浮かびあがってきた問題があるはず。（島袋）
- コロナに関しては他県での良い取り組みについての情報提供もしていけたらと思う。アフターコロナやウィズコロナは、単語として広まってはいるが定義があいまいにされていることが多い。しかしながら、コロナと共存していくうえで何をしていくべきか、という点は沖縄振興計画に盛り込まれていく必要があると思う。コロナの影響においては、国の施策においても文科省のギガスクール構想などはかなり前倒して進めることになっている。ただそれらに現場がついていけるかどうかは別問題で、県としてしっかりサポートしない限り現場任せではうまくいかない。設備だけ入れて使いこなせる人が誰もいないなどの状況になると次以降もまた取り残されてしまう人が発生するので、実際の設備と使いこなす技術の共有をセットで考えていく必要がある。したがって、コロナ対応については、まず SDGs の文脈からも短期的に必ず達成すべき取り組みを設定し、そのあとにヨーロッパのように中長期的にグリーンリカバリーしていくような、２段構えのステップが必要なのではないだろうか。（平本）
- グリーンリカバリーとは、コロナによって受けた大きな経済的な打撃を復興する際に、よりグリーンに、低炭素社会を実現し、SDGs 達成に貢献する方向性に投資を誘導していく動きのことを言う。欧州のさまざまな企業や自治体等のリーダーが集まって提言されている。（平本）
- SDGs 達成に向かっている企業に対して有利な融資をしたり、コロナ禍で特に打撃を受けた企業にリカバリーを与えたりという動きがでてくると思う。そういった観点で SDGs に関する施策はうまく活動できると思う。（蟹江）
- 東京都がオリンピックの資材調達に関して SDGs の観点から企業を選定しているらしい。今後県の入札などにも SDGs の基準を取り入れた動きがあると思われる。（島袋）
- コロナの影響を振り返ると、沖縄が実は足元を見てこなかったことが浮き彫りになったと思う。IT を推進してきているが、県内の学校ですぐにオンライン授業に切り替えることはできなかったし、お菓子メーカーのインタビュー記事では、観光客向けのお土産の商品開発は行われてきたが県民が求めるものが置き去りにされていた、との話もあった。観光を強みにしている以上、島に人が来てこそ島が活性化するという側面もあるため、沖縄のウィズコロナを SDGs と関連させて議論することが重要だ。（佐野）

審議事項（3）県民認知度調査

- まず、調査結果については比較対象が必要なので、電通の調査のような全国を対象とした調査等を見ながら比較できる項目を設計しておく必要がある。そのうえで、問 15（SDGs 項目の重要度）については、認知度が低い状態を想定される中ではほとんど意味がないように思われる。電通の調査で行われているように、脱プラやシェアリングエコノミーといった SDGs よりも身近な単語の認知度も聞いてそれを SDGs の文脈に翻

訳した方が認知度の実態としてわかりやすいのではないだろうか。（平本）

- この調査で出た結果を委員がどう理解して処理すればいいかイメージがわきにくい。また、回答の謝礼は全体ではそれなりの金額になるので、それに十分見合う調査にしなければならないという観点から、中身をよく考えて実施してほしい。（佐野）
- 問 13（2030 年の沖縄は現在より発展し、輝いていると思うか）について、サスティナブルな文言に変えるのがいいのではと思う。（玉城）

その他（事務局への今後の依頼）：

・骨子案・素案のイメージを委員と共有する
・比較的集まれる委員と事務局で作業を行う
・委員のネットワークを活用した社会的弱者への聞き取りの仕組みづくり
・早急なスケジュール調整

次回の日程：

7/21（火）16：00－18：00